

核不拡散と原子力平和利用に関わる国際フォーラム 「アジア地域の原子力平和利用と核不拡散への取組みに向けて」(仮題)

1. 国際フォーラム企画趣旨

地球環境問題、エネルギーセキュリティ、原油価格の高騰などを背景に、世界的に原子力利用推進の気運が拡大している。この動きは中国やインドなどアジア地区でも活発化しており、中でも原子力発電を新たに導入しようと考えているベトナムやインドネシア、タイなどの東南アジアの原子力新興国の存在もあげられる。一方で北朝鮮やイランの核開発問題など、核拡散の懸念も大きな国際問題となっており、核不拡散と原子力平和利用を両立させていくことは国際社会が解決すべき大きな課題の一つになっている。

今回の国際フォーラムでは、これら新たに原子力発電を導入しようとしているアジア諸国と、すでに導入を図っている日本、韓国、中国、さらに、米国、フランス、IAEAなどの国際機関にも参加を呼びかけ、新たに原子力発電を導入しようとしているアジア地域の国とすでに経験を有する国が、核不拡散と原子力平和利用の両立に向けてどのように取り組んでいくかを議論するフォーラムとしたい。開催にあたっては、東京大学G-COEとの共催とする。

なお、すでに昨年12月には、タイ、ベトナム、インドネシアに現地調査に行っており、また、本年2月には東大との共催で透明性のワークショップを開催してこれら東南アジア諸国を招く予定の他、3月18-19日には、ベトナムにおいて輸出管理、保障措置、核物質防護といったテーマで専門家会合(セミナー)を開催するなど、今回の国際フォーラムに向けた準備を開始している。

2. 実施概要

(1) 開催場所：神保町学士会館(参加者300名規模を目標)

(2) 開催時期：平成20年6月4日(水)、5日(木)

(3) 参加を呼びかける国等：

韓国、中国、インドネシア、ベトナム、フィリッピン、タイ、マレーシア、IAEA、インド、米国、オーストラリア、フランス等

(4) 東京大学G-COEとの共催

(5) 構成案：

第1日目の午前中には、新興の原子力発電導入国への協力の現状や協力の枠組みについてIAEAから、また、日本(JAEA)からも平和利用と核不拡散の両立に向けたKeynote Speechを行い、1日目の午後、2日目の午前、午後とそれぞれ半日かけて3つのパネルディスカッションを行なう。パネルディスカッションのテーマは、原子力平和利用の推進(原子力技術供給国への期待、先進国ができること)、3S(安全、核セキュリティ、保障措置)の確保に向けて、透明性・国際交流・人材育成、とする。

3. フォーラム構成案

(1) 第1日目

午前中10時～12時半

開会挨拶

Keynote Speech

新興の原子力発電導入国への協力の現状や協力の枠組みなどについて
(IAEA)

核不拡散と原子力平和利用の両立に向けて日本にできること (JAEA)

午後14時～17時

パネルディスカッション

原子力平和利用の推進

パネリストからはそれぞれ、10分程度のプレゼンテーションをお願いする。
(トピックス) 新興原子力発電国の建設計画、原子力技術供給国への期待、先進国ができること、協力の進め方

モデレーター：IAEA

パネリスト：タイ、ベトナム、インドネシア、日、米、仏

(2) 第2日目

午前10時～12時半

パネルディスカッション

パネリストからはそれぞれ、10分程度のプレゼンテーションをお願いする。

3S(安全、核セキュリティ、保障措置)の確保に向けて(安全については軽く触れる程度)

(トピックス) 各国の取り組み、3S確保に向けた国際協力、

モデレーター：日本

パネリスト：日、米、オーストラリア、中国、ベトナム、インドネシア

午後14時～16時半

パネルディスカッション

パネリストからはそれぞれ、10分程度のプレゼンテーションをお願いする。

透明性・国際交流・人材育成

パネリストからはそれぞれ、10分程度のプレゼンテーションをお願いする。

(トピックス) 透明性の定義、2月に行なった透明性WSの成果、国際交流の現状と今後のあり方、各国の人材育成の取り組み。

モデレーター：日本(東京大学)

パネリスト：フィリピン、マレーシア、インドネシア、ベトナム、中国、韓国

以上